

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091600027		
法人名	社会福祉法人 和歌山ひまわり会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム向日葵倶楽部 東ユニット		
所在地	和歌山県有田郡広川町南金屋662-1		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・在宅生活の延長として「本人の望む暮らし」に近づけるよう、一人ひとりの過去・現在、未来に予測される状況を的確に把握し柔軟に対応しています。</p> <p>・グループホームに入居していても地域の一員として社会との交流の場を多く設け、その人らしい生活が継続できるよう支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は国道から少し奥に入った閑静な高台に位置し、津波の心配もなく過ごせる。新型コロナも3年が経過し、利用者の気持ちに配慮し間隔を保ちリモート面会も実施している。下校時間に小学生を見送る習慣がある。通院は家族に協力依頼を行いつつ、家族との面会の機会にも繋げている。排泄に関しては、紙おむつの使用は最小限にするよう日々努力している。職員の記録作成も利用者の傍で会話しながら行うことで、利用者との時間を大切にしている。食器も陶器を使用し、家庭的な雰囲気を意識したケアが日々提供されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人との理念とは別に、東ユニット独自の理念を掲げている。 「ひとりひとり・まごころこめて・わきあいあいと・りかいしあう」を実践できるよう、玄関に掲げている。開設当初の、入居者様の直筆。	開設時に利用者と職員が共に考えた事業所理念を現在も使用している。利用者直筆の理念が玄関先に掲示されている。西・東ユニットの理念は異なっており、その特徴がでている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区清掃活動に参加している。 きしゅう君の家に登録し、登下校時の学生に声掛けを行っていたが、コロナ感染予防のため自粛中。	屋外にて小学生の下校を眺め、時には声かけも行うことが利用者の楽しみにつながっている。事業所として自治会にも入会し地域の清掃活動には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、グループホームの理念、認知症の理解、支援内容を伝え理解が得られるように取り組んでいたが、コロナ対策のため、運営推進会議を開催せず、資料を送付し、サービスの取り組み状況の報告などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策のため、運営推進会議を開催せず、福祉課課長・地域包括保健師・民生委員・地区区長に資料を送付し、サービスの取り組み状況の報告などを行っている。	運営推進会議はコロナ感染予防のため開催を控えつつも2か月に1度、役場に報告を行っている。新型コロナ対応の状況に応じ会議開催の準備も始められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、運営推進会議以外でも連絡等を密に行うことで、連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターから適宜入所相談を受け、前向きに検討するようにしている。生活保護受給者も入所でき、ケースワーカーとも連携が深められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修にて、管理者・職員は身体拘束についての知識を持って取り組みに努めている。 外部の研修については、コロナ対策のため参加していない。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束防止に努めている。マニュアルも整備し、毎年職員に周知している。日々のケア中でも気になる発言はスタッフ間で注意喚起し、拘束防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修にて、管理者・職員は虐待についての知識を持って取り組みに努めている。 外部の研修については、コロナ対策のため参加していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修にて、管理者・職員は権利擁護についての知識を持って取り組みに努めている。 外部の研修については、コロナ対策のため参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書に基づいて十分な説明を行い、同意の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への電話連絡時に意見交換し、入居者の日常生活に反映できるように努めている。	家族に対しては電話連絡を通じ意見を聴きとるようにしている。外部者への意見表明についても、書面に明示し契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング内で職員間で話し合いができる環境を設け反映させている。	各居室のネームプレートの廃止の提案や、2カ月に1度行っている家族への報告書も、「写真入りでパソコン入力よりも手書きの方が良いのでは」という職員の意見を取り入れ実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資格取得のための情報提示や資格取得時の勤務等に考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については、コロナ対策のため参加していない。 内部研修にて、人材育成できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互実習は行っていないが、他の施設と交流し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、本人の思いや話を傾聴し、入居後においても不安のない生活が送れるよう、ニーズを引き出し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に、家族の思いや困っていることや不安なこと等を傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、本人・家族の思いを聞き取り状況を把握し、他のサービスを含め連絡調整を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはして頂き、出来ないことを職員が支援していくことを意識し実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族との時間を設け、外出等家族に協力していただけるよう取り組んでいたが、コロナ感染予防をおこなった面会の対応を行い、外出については、自粛していた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・本人の希望があれば、入居前まで行かれてた病院・商店等に外出できるよう支援に努めている。親友や知人などの馴染みの関係性の継続。現在は、コロナ感染予防のため外出は行っていない。	直接対面しての面会ができないが、窓ごしに面会したり、オンラインでの面会を導入し関係性が継続できるようにしている。家族等への定期的な電話連絡や報告書の送付も役割を果たしていると言える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しながら、入居者同士が円滑な関係を構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了(特養入所・病院入院・他施設入所)されて後でも、家族の相談に応じたり、地域連携室とも連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情や言動を観察し、会議で話し合い、把握に努めている。	日々のケアを通じ利用者の意向を確認し、意思疎通が難しい利用者に対しては、職員同士で情報交換を行い意向の把握に努めている。また、ユニットごとに申し送り帳を活用し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親しい知人等からの聞き取りによって情報収集し、その人の望む暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録等(支援確認表、排泄・飲水チェック表)を活用し、一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を聴き、情報収集・アセスメントを行い、介護計画を作成し期間に応じモニタリングを行い状態変化時は見直しを行う。	看護師が病状把握し医師との連携を行っている。家族の意向は電話や面会時に聞き取り、その内容を介護計画に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かい記録を残し、会議等で意見交換を行い、模索しながらではあるが、その時々での最善策を実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の状況に応じて通院・買い物等必要な支援は柔軟に対応していたが、コロナ感染予防のため自粛中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出した際には、地域の方々や登下校時の学生と会話をしたり、四季を肌で感じられる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、又は家族が希望する医院への受診が可能である。様々な医療機関との連携を取り十分な医療を受けられるよう、支援している。	事業所が提携している医師が定期的に診察を行い、通院が必要な場合は家族が受診介助を行う。病状に変化があった場合は、看護師が医師との連携役となり対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在中時には、報告・連絡・相談をし、また不在時の時間帯であっても常に24時間連絡を取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の治療プロセスや退院後のケアなどについて連絡を取り合い、地域連携室との連携は図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聴き、医師・看護師を交えて情報の共有を図り、連携を密にしている。 本人にとって必要サービスの紹介、または、今後重度化していった対応について適宜家族と話をしている。	看取りについては契約時や病状変化時に家族と話し合う。法人が運営する特養での看護の方が適切と判断すれば、転居するようにしている。事業所では昨年度今年度共に看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、発生時には素早く各機関や関係者との連絡が取れる仕組みをとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難訓練を行い、消防の指導を受けている。また、災害時の対応マニュアルに地域への応援要請も加えており、協力していただける体制を作っている。	新型コロナの影響で消防署の立ち合いも難しく自主的な訓練となっている。災害時には区長と連携し協力を得られるような関係を築いている。自家発電機を備え、食糧備蓄も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や人権は、誰もが持っている権利であり、人として尊重されて当然である。職員は、入居者が人格否定されないような声掛けや対応を行っている。	苗字での声かけが多いが、家族の希望に合わせた呼び方も取り入れ利用者に応じた声かけを行っている。トイレや入浴場面では、利用者の要望に合わせ同性介助にも取り組んでいる。利用者の個人情報については、鍵のかかる書庫に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、入居者が本人の意図を示したり、自己決定出来るような声掛けを工夫し、自由に表現できるように個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位ではなく、入居者自身が主体的に行動できるよう、支援し体調や気分等に十分に配慮しながら入居者の希望を尋ねたり、相談しながらその人らしさを大切に過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の中には、お店に行き自分で着たい服を選び購入したいという方もおられるため、ご家族様や職員と買い物に出かけていたが、コロナ感染予防のため自粛中。また、日常生活の中でお化粧をされる方がおられたり、個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物を聞きだし、メニューに取り入れたりと、季節感を味わえるよう工夫している。調理の下ごしらえや後片付けを負担にならない程度に手伝っていただき、食事を楽しんでいただけるよう支援している。	職員が食事準備を行うが、ネギを刻んだり魚をさばいたり利用者に関われる機会も設け、利用者と職員は同じ昼食を摂っている。随時行うおやつ作りに食卓は大盛り上がりである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表、食事チェック表・水分チェック表を利用し各入居者の状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い、入居者の状態に応じて支援している。希望があれば、歯科往診にて治療も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うなど支援を行っている。	紙おむつを使用しないケアを基本とし、日中は布製の下着を推奨している。夜間はポータブルトイレやリハビリパンツ、尿取りパッドを使用する等利用者に合わせたケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、飲食物の工夫や適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば毎日入浴したいだけける。 本人の希望に合わせて入浴が楽しめるように職員同士連携を取り、夜間浴も実施している。	一般浴であり10:00～19:00まで入浴可能である。身体状態に合わせ2人介助も行い、菖蒲湯や柚子湯等で季節感を味わえるようにもしている。入浴拒否の場合も声かけ等を工夫し入浴の実施に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて居室にて、休息や安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を1つにし全職員が閲覧でき、服薬の目的やリスクについて理解でき、服薬に変更がある場合は、入居者の変化に気を配り細かい記録を残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を送って頂けるよう、その人の趣味や嗜好を知り、時には外食や、お寺参りなどに出かけ気分転換をしていただいていたが、コロナ感染予防のため自粛中。天気の良い日には外気浴や室内でのレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って、職員とともに買い物・外食等へと出かけたり、家族などの協力を得て買い物などに出かけられるように支援していたが、コロナ感染予防のため自粛中。	敷地内での外気浴や、洗濯干しに戸外に出たり職員と散歩に出かけたりしている。過去には買い物や町のイベントで家族と泊りがけで出かけるようなことも行っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせた金銭管理を支援できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があれば、電話を掛けるなどの支援を行っている。 年末には年賀はがきを用意し、希望がある方は自ら書き、投函する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「和」と「洋」の融合した空間を作り、温かみのある共有スペースにこだわっている。 また、テレビを観やすいようにテーブルの配置に配慮し、空調の調整や音量などにも配慮している。	集団での居住空間や通路もすっきりと整備され、季節を感じられる装飾も適宜行っている。遮光も適度で静かで落ち着いた空間である。新聞を読んだり洗濯物をたたむ利用者の姿は、居心地の良さの証である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには和室を設け、食事用の椅子の他に3人掛けのソファを設置している。 その時々で入居者同士で快適に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた物や好みの物を自由に配置していただき、快適に過ごせるよう配慮している。	自宅で使用していた家具が持ち込まれ、希望に応じ仏壇も持ち込める。身体状態の変化や動きやすさも考慮し個々に合わせた配置に適宜変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を保障した上で、入居者が自由に動けるよう自立した生活が送れるよう配慮している。		